

労働の未来を創る

グローバル化時代の労働組合の挑戦

「労働の未来研究委員会」(*主査)

*桑原 靖夫 (獨協大学経済学部教授)	佐藤 博樹 (東京大学社会科学研究所)
井口 泰 (関西学院大学経済学部助教授)	日本社会研究情報センター教授)
江上 節子 (産能大学経営情報学部助教授)	武川 正吾 (東京大学大学院人文社会系)
川喜多 喬 (法政大学経営学部教授)	研究科社会学研究室助教授)
木村 文勝 (㈱三菱総合研究所政策研究部長)	須藤 修 (東京大学社会情報研究所助教授)

いま、各国の労働組合は、未来戦略の構築とその実践に向けての模索を開始しつつある。連合もまた、日本経済社会の構造改革の当面の具体的目標を「高度福祉社会」とし、これを実現する社会構造の枠組みとして「分権型・分散型社会」を、またそれを運営する原理として「透明で公正な社会」の実現を掲げ、この中期的戦略の実践の中で労働の未来の展望を切り開こうとしている。

こうした状況をふまえ、連合総研は1996年4月に「労働の未来研究委員会」(主査：桑原靖夫獨協大学教授)を発足させ、21世紀に向けて未踏の領域に乗り出そうとする労働組合が、その中期戦略を形成するにあたっての、基礎的現状認識と将来展望、ならびに政策課題を明らかにすることとした。

幸いにして、経済学、社会学、労働調査の分野での第一線の研究者の方々のご協力を得て、およそ2010~2020年を目途とした見通しうる将来における、労働の未来の諸側面に、多角的な視野からの照明をあてると同時に、労働組合の戦略的選択に関わる諸課題について、専門的な見地から、鋭い検討を加えていただくことができた。また、本研究委員会の研究活動の一環として実施した「仕事と職場の変化」に関する個人アンケートならびに組合ヒアリングでは、連合構成組織の格段のご協力のもとに、職場と仕事のいまとこれからを実証的に明らかにする貴重なデータを得ることができた。

本書は、13回に及んだ「労働の未来研究委員会」の討議をふまえ、主査ならびに研究委員の方々から、それぞれのご専門の立場からの論文をご寄稿いただくとともに、労働組合の戦略的選択に関する連合総研事務局による論点整理、ならびに「仕事と職場の変化」に関する個人アンケート、組合ヒアリングの分析結果を併せて収録し、一書にまとめたものである。

目次

第Ⅰ部 労働の未来：グローバル化時代の仕事と労働者 —新しい世紀への指針をもとめて—	第Ⅱ部 労働の未来の諸側面 第Ⅲ部 グローバル化と労働組合の戦略的選択 第Ⅳ部 仕事と職場の変化の展望
---	---